

(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

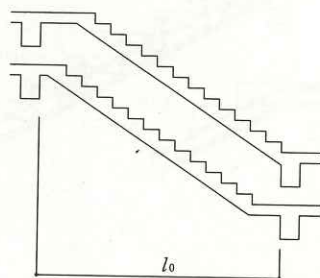


図 6.3 二辺固定スラブ形階段配筋 (その 2)

【その他記載すべき事項】

- (1) 配筋種別
- (2) スラブ厚さ (mm)
- (3) 鉄筋の種類

7 節 梁貫通孔及びその他の配筋

7.1 梁貫通孔の配筋

【 梁貫通孔の配筋 ・各部配筋参考図 7.1 による ・図示 】

- (1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図 7.1 による。
 - (2) 孔の径は、梁せいの 1/3 以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
 - (3) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より $D/3$ (D は梁せい) の範囲には設けてはならない。
 - (4) 孔は、柱面から、原則として、 $1.5D$ 以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
 - (5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の 3 倍以上とする。
 - (6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
 - (7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図 7.2 による。
 - (8) 孔の径が梁せいの 1/10 以下、かつ、150 mm 未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
 - (9) 溶接金網の余長は 1 格子以上とし、突出しは 10 mm 以上とする。
 - (10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋 1-13φ のリング筋を取り付ける。
- なお、リング筋は、溶接金網に 4 箇所以上溶接する。
- (11) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。